

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 7 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102566		
法人名	特定医療法人社団 友愛会		
事業所名	福光グリーンホーム		
所在地	岐阜市福光東3丁目10番8 (電話) 058-210-2011		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月17日	評価確定日	平成19年9月11日

【情報提供票より】 (平成 19 年 6 月 27 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 8 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 18 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	18 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,500~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 6 月 27 日 現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	6 名	要介護2	12 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人社団 友愛会 岩砂病院 竹村歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街中心部の東、少し歩けば田畑が続く郊外の住宅街の中に、2階建て木造のホーム建物がスッキリと溶け込んでいる。中はゆったりと広く、天井は高く、清潔である。特定医療法人の、介護部分の中心をになうグループホームとして3ユニットが経営されている。やや介護度の低い元気な利用者が、ほとんど毎日行われている外出やリハビリのほかに、お茶・お花・絵・書道・手芸・フラダンスなどの活動的なメニューを楽しんでいる。法人を支える医療と介護という両輪の一方の中心として、両輪の円滑な運営の基に、利用者の安全・安心・快適な生活が守られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題についてはチェックシートを作って日常業務の中でも確認されほとんど改善されているが、玄関口の施錠のみ継続案件となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に会議を開いて話し合い、対外的に共通な部分は一本化されているが、利用者が入居後各ユニット内で生活する事に関する項目はユニット毎の個性がそのまま活かされている。日常生活における活動のチェック項目として、または重要な気づきとして業務改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、班長、民生委員、家族、行政などが出席し、ホーム見学の後開催された会議の中で提案された『被災時における予定される避難場所を利用者家族へ予め連絡しておくこと』は既に実行されている。行政とは法人本部が医療のみならず介護分野でも多方面の連携を行っているが、ホーム単独でも制度が変わったときには特に相談等をして業務に支障をきたさないようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者家族への報告は、随時電話による他に、法人広報誌・ホームの月報、さらには担当者による『手紙』によって報告されている。家族の苦情は、電話でホームの苦情相談担当者と言う他に、苦情箱はホーム玄関口にあり、家族会・運営推進委員会等も発表する機会はある。苦情処理は組織として受けとめ、その詳細は書面で残され、法人としても審議されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	天気がよければほとんど毎日の散歩があり、公民館活動、ラジオ体操、地域防災訓練、神社掃除、行事の参加等頻繁な外出で地域住民とのふれあいは多い。年2回ずつの幼稚園児と小学生(1クラス約40名)の来訪があり、その後その時に来た生徒が友人を連れてまた遊びに来たりということもある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体である特定医療法人の理念「…健康で幸せな生活を願い、…さらに福祉・介護との連携に努めます」を受けて、ホーム職員は「認知症になられても、その方がその方らしく笑顔で生活できるように」の理念を自分達で作って利用者の充実した生活を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人経営者の法人理念とホーム職員のホーム理念は車の両輪のごとくかみあい、医療と介護の連携が日々話し合いを持ちながら取り組んで介護の実践の場に活かし、利用者の元気な行動となって現れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	天気がよければほとんど毎日の散歩、公民館活動、ラジオ体操、地域防災訓練、神社掃除の参加等頻繁な外出で地域住民とは近所づきあいである。年2回ずつの幼稚園児と小学生(1クラス約40名)の来訪があり、その後その小学生が友人を連れて個人的な再訪もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回改善課題については意識改革を行い、チェックシートを作って日常業務の中でもそれらの課題を確認し、ほとんど改善されているが玄関口の施錠のみ継続取り組みとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、班長、民生委員、家族、行政などが出席し、ホーム見学の後開催された会議の中で提案された『被災時における予定される避難場所を利用者家族へ予め連絡しておくこと』は既に実行されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは法人本部が医療のみならず介護分野でも多方面の連携を行っているが、ホーム単独でも制度変更時には特に相談等をして業務に支障きたさないようにしており、今後は定例的な会合をもたれようとしている。小中学校の体験学習を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時電話による報告の他に、法人の広報誌である『友愛会だより』、ホームの月報である『ホームたより』更には担当者による利用者毎の状況報告の手紙によって報告されている。小遣帳は家族来訪時に説明し確認印が押されてある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見は家族の面会時に聞いており、苦情はホームの苦情相談担当者と言う他に、苦情箱は玄関口にあり、家族会・運営推進委員会などでも発表する機会はある。苦情処理は組織として受けとめ、その詳細は書面で残され、法人としても審議されている。	○	苦情相談窓口について重要事項説明書と契約書内容が統一されていないので、利用者に分かりやすくされることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	若い新入社員についてはその適性も含めて法人内での最小限の人事異動はある。介護職員についても、利用者との関係に配慮してホーム内のユニット単位での担当替えは行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や体制は整っており、外部研修は業務出張扱いである。今年度も、法人内部研修や県各種機関主催の研修・講習がほぼ毎月予定されている。休憩時間は時間通り別室で休み、仮眠する事もできる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人本部との情報交換や意識統一があり、管理者が中心になって同業者とのネットワーク作りを図っている。職員レベルでは参加した会議や研修会の場で他社職員と面識が出来て情報交換が行なわれている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人には見学を呼びかけ、1週間程度の体験入居も出来る。一体の建物内にあるデイサービスの利用者がホームに入居されるケースもある。現在夫婦の入居希望者が他の利用者に自然な形で受け入れてもらえるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や書の得意な人、教師、茶道・華道の師範と、利用者の経歴や話は多彩であり、それぞれ利用者に合わせて個別ケアに取り組んでいる。利用者から学ぶことは多くあり、支えることはいつか自分も支えられる順送りの精神で行なわれている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のヒアリングなどで作られたフェイスシートとその後作成された基本情報シートで、利用者・家族の背景や思いの把握と管理に日頃より取り組んでいる。外出・趣味・ゲーム・リハビリ・食事・入浴と活動的ではあるが無理強いはしていない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的な思いや意向はフェイスシート・基本情報シートで把握しているが、毎日の状況変化をモニタリングし、毎月の職員全員会議でも把握している。それらを踏まえて3ヶ月毎に本人・家族も交えたユニット毎のサービス担当者会議で介護計画が見直しされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日が介護計画のモニタリングを行っている意識であるが、変化があればその時に、変化がなくても3ヶ月毎に本人・家族も入ったサービス担当者会議を開き、ケアアセスメントに基づく介護計画の見直しを行なっている。	○	さらに、介護計画の見直しとは別に、年2回、詳細な日常生活動作や認知度調査が行なわれているので、見直しに有効活用されるとよい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば特養・老健の紹介がある。病院派遣の理学療法士は個人別リハビリカルテを作成し、毎週指導を行う。職員は毎日それにもとづくトレーニングを行なっている。家族が宿泊するときには和室・寝具も用意される。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、本人及び家族が希望すれば別だが、これまでの主治医を継続する対応である。訪問調査当日も平服で血圧計を持った法人以外の開業医の往診の姿が見られた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として病院施設もあり医療と介護の役割分担を明確にしていく観点から、終末期直前までの介護は行い、看取りの段階は病院又は自宅でと説明している。希望があれば協力病院の他に施設の紹介もされる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と利用者の会話は、立場の違いを考え対等ではなく一段下がった意識で言葉かけをしており、明るく和やかな中にも配慮されている。事務室など必要なところは施錠されている。	○	個人情報に関しては、契約書の秘密保持で触れてあるが、情報の扱い・保護や方針についても書面、同意書などの整備が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・入浴時間は目安の時間はあるものの基本的には自由であり、食事も健康に支障のない限り自由であり、一人ひとりの暮らしが確立されている。外出・リハビリ・レクレーションとメニューは豊富に選択でき個別性も徹底されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人毎の食器・箸が使われ、名前は食器の裏にするなどに工夫されている。日曜日は希望メニューである。食材の買出し・調理下準備から下膳・食器洗い・テーブル拭きまで役割分担で協力されている。車椅子の方は食堂椅子に移って食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回、午後帯の入浴が原則だが、夜間入浴・シャワー浴・清拭なども対応している。一人での入浴もあり、見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食事前後のめいめいの作業分担のほかに、茶華道の教授や書道・水彩画・絵手紙・手芸品などの多彩な趣味にボランティア等の協力を得て、日々の生活に楽しみを持てるよう心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住宅街の裏通りで日中の車は少なく近くに公園もあり、天気の良い日はほとんど毎日のように散歩・外出・買物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は利用者が中から就寝時施錠して安心する程度で外からは使われてはいない。介護度が比較的低くリハビリ訓練効果もあり、足の達者な方が多いことから玄関の自動ドアは施錠されている。	○	玄関口はセンサーチャイムなどを工夫され、今一步の開放感が得られることが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの防災訓練を行い、避難場所・経路は玄関口に貼付し家族にも連絡し、備蓄飲料水は後利用し常時入れ替えられている。消防署直結電話・緊急連絡先一覧・体制表は事務室壁に貼付し、近隣協力依頼や地域防災訓練参加も行なわれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は月～土曜日は外部の配食サービスを利用しているが、毎月開催される給食委員会、管理栄養士の献立、主食・副食・水分摂取量のチェック、服薬管理などは円滑に行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造2階建てで天井が高く、木質系内装も快適である。ボランティアや利用者も行う掃除・ガラス拭きなどで清潔である。居間・食堂もゆったり広めで、採光・通風とも程よく管理されている。習字・生花・絵画・絵手紙・写真などの飾り付けも品よく行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームの無料貸与や各自の持込みなどでお好みの各種各様である。タンスには地震対策の補強材も順次使われており、家具・ベッドのレイアウトも考慮されている。各室に設けられている廊下側の通風用障子小窓は夜間見守りにも便利である。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。